



田舎源氏貳拾二



~ 13  
242  
22





國貞画  
仙窟堂  
壽梓

種彦作  
地雨せ紫  
松よそり橋

書肆

江戸通油町  
仙鶴堂 新編 仙窟堂の蔵

能 同人輯  
今人叢白集 全二冊 未百年早春出版

能 同人輯  
今人附合集 全四冊

新刊板

凡天保三、四年、七年との間  
海内各道方ふ及々存名ある  
人々の附合六百名を以つて出づ  
の海り一瞬に足あらしむ

能 同人輯  
今人四歌仙 全一冊

開板 梅屋本 相対小園 四人の作まて風の能洞  
出づの海りあそくこまきまの海あり

能 同人輯  
今人芳州集 全二冊

開板 梅屋本 相対小園 四人の作まて風の能洞  
出づの海りあそくこまきまの海あり

東表、本末園字匠技撰

園分取ひし佳英甲斐作歴を舟也園仙仰とあると中若の古人と  
あり老五名所の人の附合凡家利名毎々文政とある故合二百  
名とあり芳州集とあるの海り一瞬に足あらしむ

東表、本末園字匠技撰  
出づの海りあそくこまきまの海あり

光二編下



種彦也  
團真画

種彦屋

名  
名

名  
名  
名



光二編上

門 八 13  
 號 3742  
 卷 22

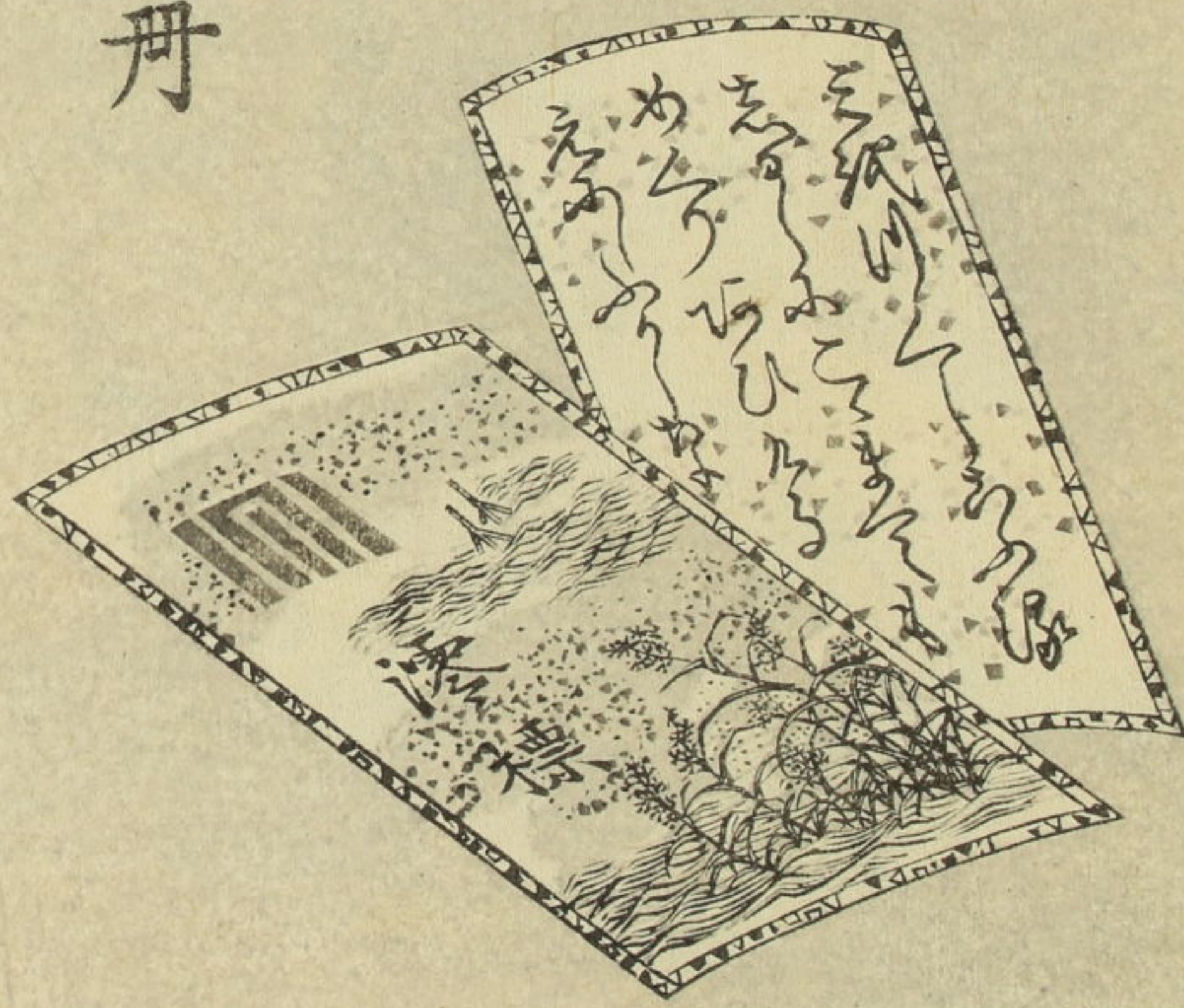
修紫田舎

源氏

種彦作  
 國貞画

第六二編下冊

通油町 鶴屋喜右衛門板



御子孫方みこむすまへ不告奉ふこまへる。修紫しゆしで平常陸ひらたけ乃宮のみやの。娘君むすめの荒あはる宮みやにおちよはる事ことと綴つづり。蓬生よもぎの巻まき源氏げんじの須す下げ下げりあり。娘君むすめの落居おちつきの事ことまてと書載かきのりて前後ぜんごする。物語ものがたりの近ちかく壁言かきことハ忠臣ちゆうしん藏ざうの七段目しちだんめの平右衛門ひらゑもんが細傳さいでんと説せつん。師直しちくと縁ゆかりと討得うちとむ古郷ふるさとへ廻まわ死し父ちち及およ勘平かんぺいが横死よこしと變連判へんれんはんふ。加かりて本ほん抄しょうの遂すい早はやうもふ。行事ぎょうじまてと記ある。三段目さんだんめの所ところよりして。十一段目じゅういちだんめの後のちへより。是横こゝろの並ならびあり。蓬生よもぎもそれこれの同おなじ。故ゆゑ不明あや石いしの。次つぎへ操さあが。僅わずかは太武たぶの北きたの方かたのりて。大詰おほひらの事ことと。修紫しゆしの事ことと。故ゆゑ不明あや石いしの。加かふりやこれこれの長ながあつと。前まへ人もさるさる。一いちカ屋やの。敵たかの用心よこしま嚴げんしく。と。又五段目ごだんめの前まへの事ことと。ひびきまよまよ麻あししれど。唯ただ内うちと文章ぶんしょうと。かちるかちる故ゆゑ混雜こんざつせん歟や。柳亭種彦りゅうていしゆげん記き。

源氏七二編

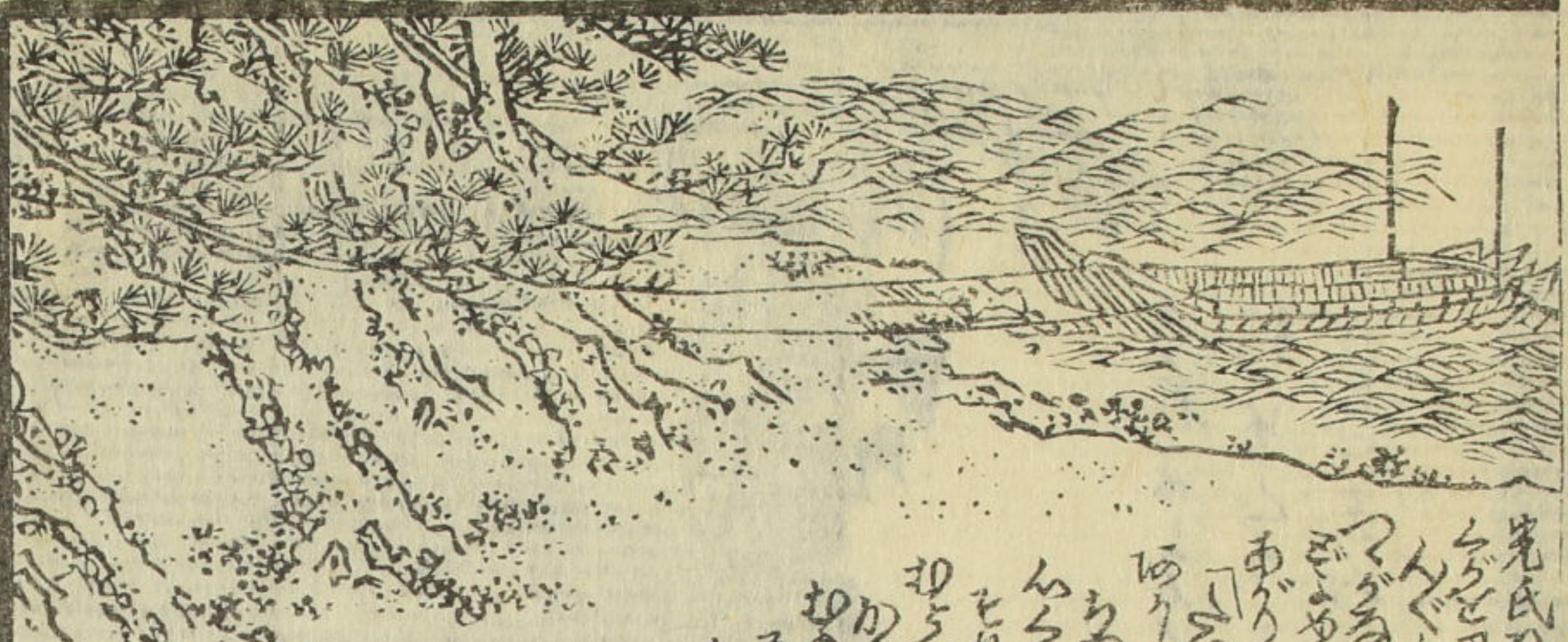
七二

思ふにちかき心も  
あはれなるも我を  
かきとらふ



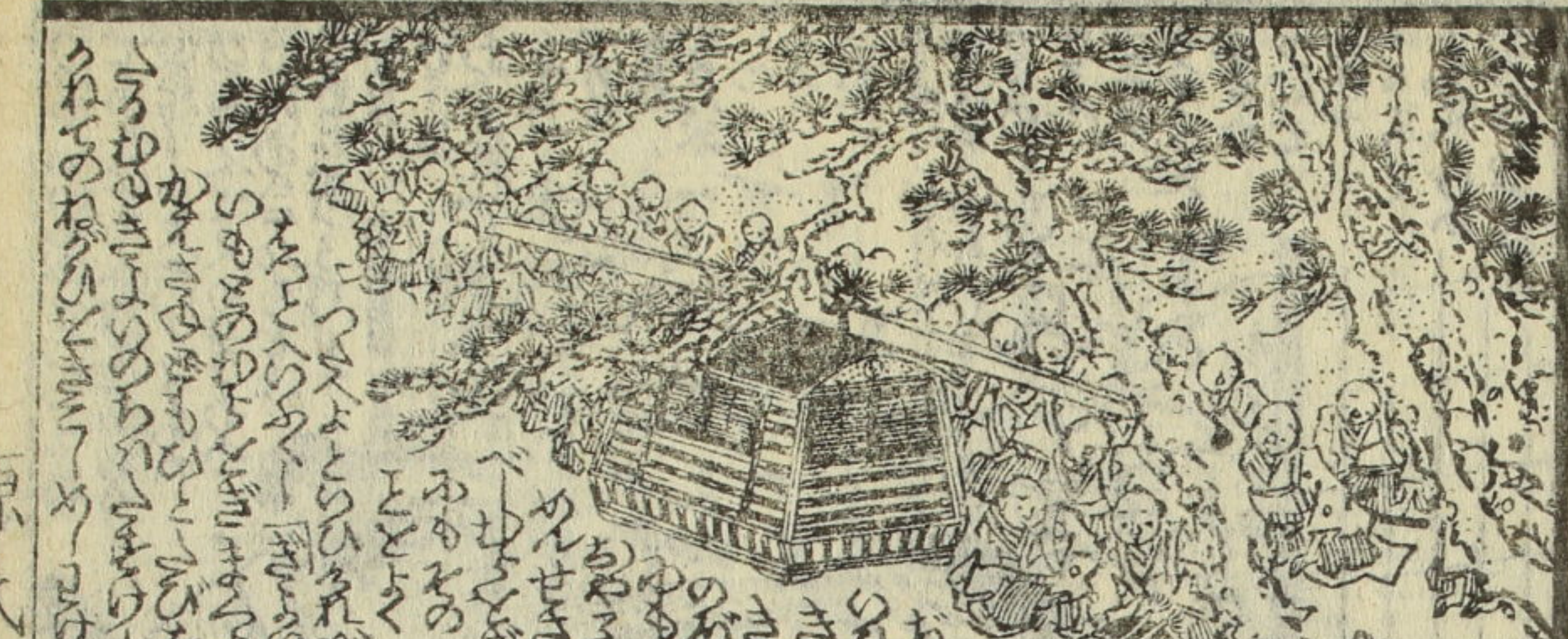
これより世はあはれ  
ゆめごとく思ふに  
うきまがむ成を





先氏ハあるは世のうらみのより  
 さしと見しは世をわたりゆきの  
 むぎもあやむとぞはあらあはら  
 つまひいづはるらむのいづは  
 ありていづはるらむのいづは  
 ありていづはるらむのいづは  
 ありていづはるらむのいづは

左の  
 とき中なるあはれにこれよりあはれに  
 とあはれにあはれにこれよりあはれに  
 あはれにあはれにこれよりあはれに  
 あはれにあはれにこれよりあはれに  
 あはれにあはれにこれよりあはれに  
 あはれにあはれにこれよりあはれに  
 あはれにあはれにこれよりあはれに  
 あはれにあはれにこれよりあはれに  
 あはれにあはれにこれよりあはれに

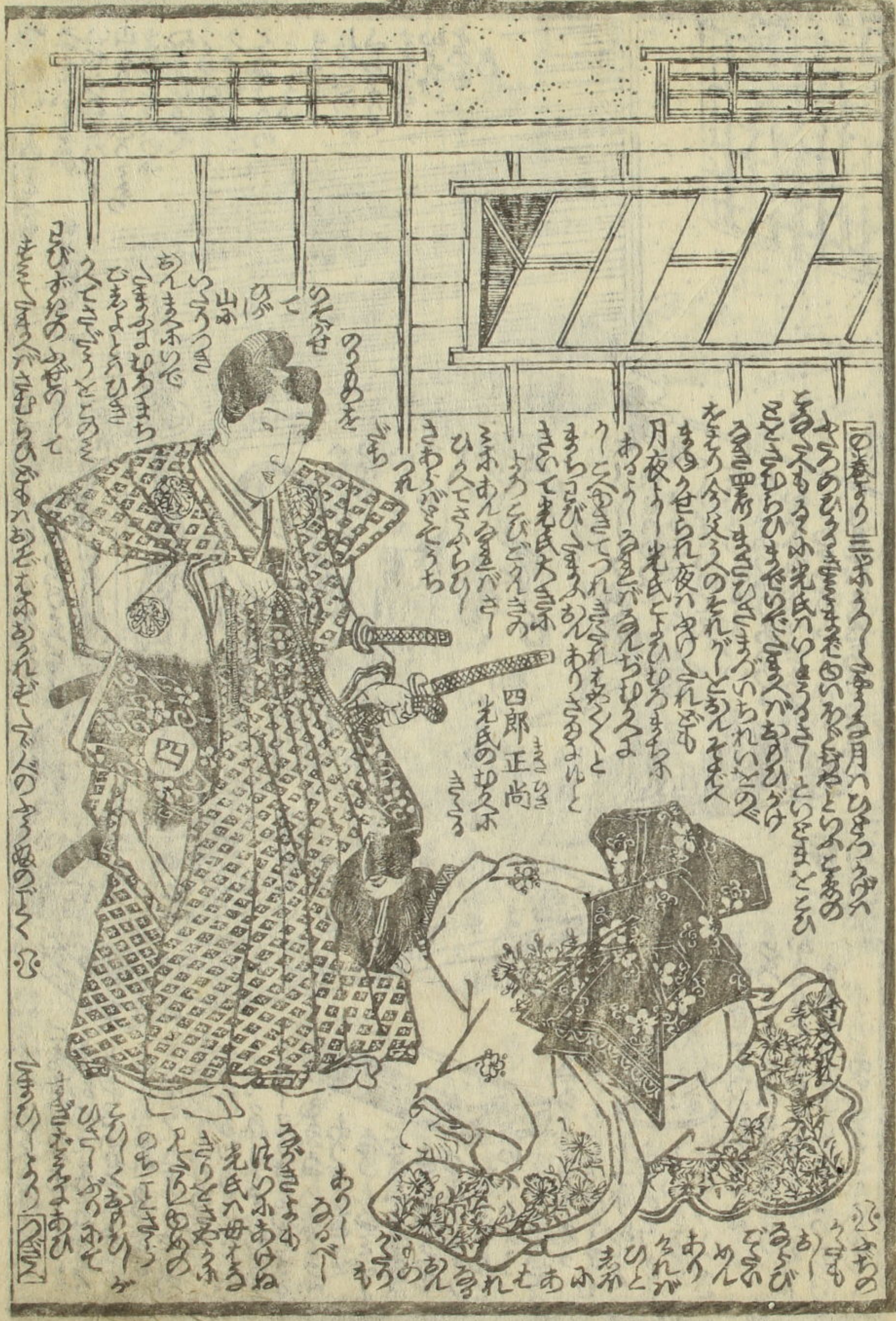


あはれにあはれにこれよりあはれに  
 あはれにあはれにこれよりあはれに  
 あはれにあはれにこれよりあはれに  
 あはれにあはれにこれよりあはれに  
 あはれにあはれにこれよりあはれに  
 あはれにあはれにこれよりあはれに  
 あはれにあはれにこれよりあはれに  
 あはれにあはれにこれよりあはれに  
 あはれにあはれにこれよりあはれに  
 あはれにあはれにこれよりあはれに









源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語



源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

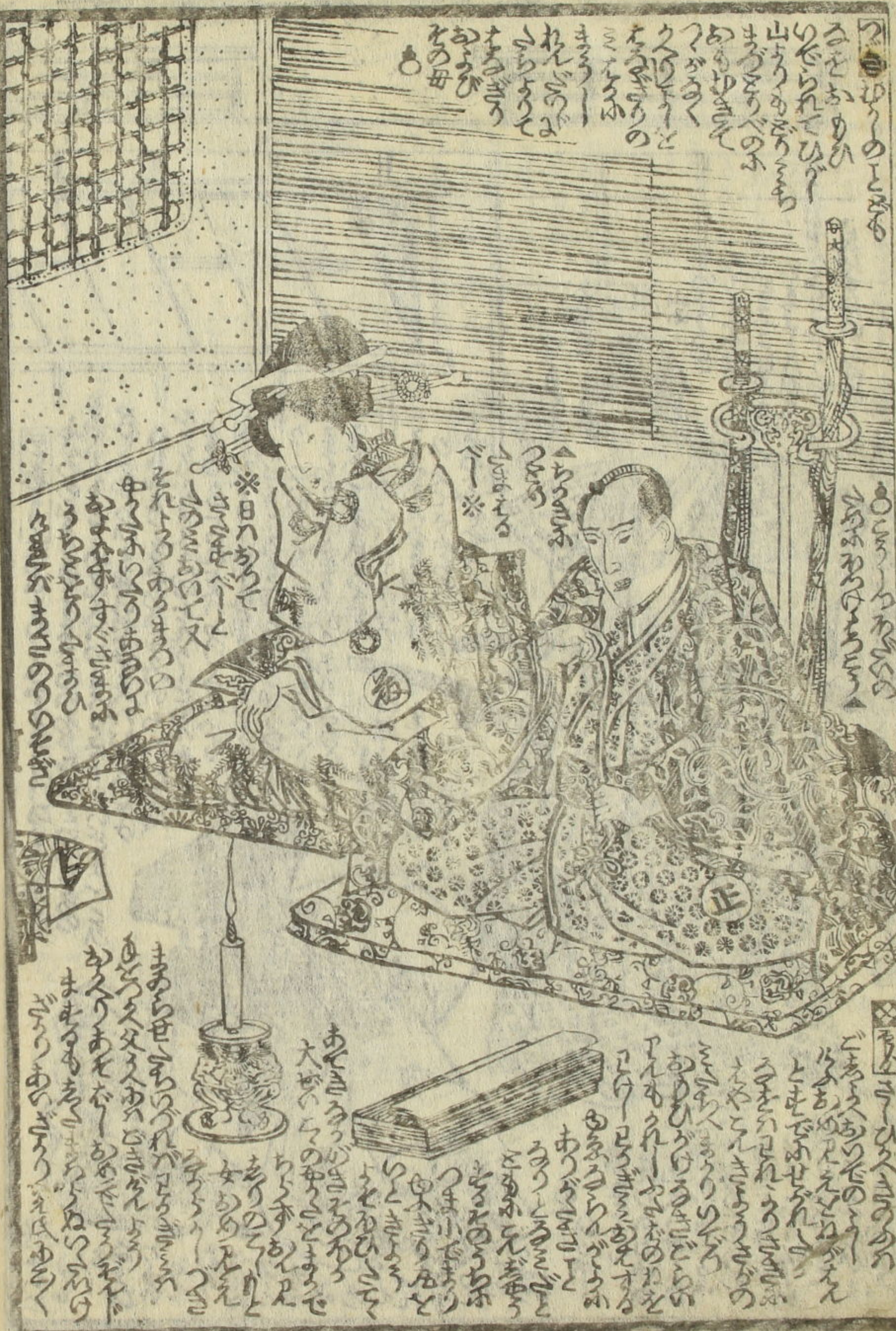
源氏物語

源氏物語

源氏物語

源氏物語

山さくらもさくらも  
まよひのさくらも  
あつたさくらも  
つらさくらも  
まよひのさくらも  
あつたさくらも  
つらさくらも  
まよひのさくらも  
あつたさくらも  
つらさくらも



あつたさくらも  
つらさくらも  
まよひのさくらも  
あつたさくらも  
つらさくらも  
まよひのさくらも  
あつたさくらも  
つらさくらも  
まよひのさくらも  
あつたさくらも  
つらさくらも

あつたさくらも  
つらさくらも  
まよひのさくらも  
あつたさくらも  
つらさくらも  
まよひのさくらも  
あつたさくらも  
つらさくらも  
まよひのさくらも  
あつたさくらも  
つらさくらも



あつたさくらも  
つらさくらも  
まよひのさくらも  
あつたさくらも  
つらさくらも  
まよひのさくらも  
あつたさくらも  
つらさくらも  
まよひのさくらも  
あつたさくらも  
つらさくらも

あつたさくらも  
つらさくらも  
まよひのさくらも  
あつたさくらも  
つらさくらも  
まよひのさくらも  
あつたさくらも  
つらさくらも  
まよひのさくらも  
あつたさくらも  
つらさくらも

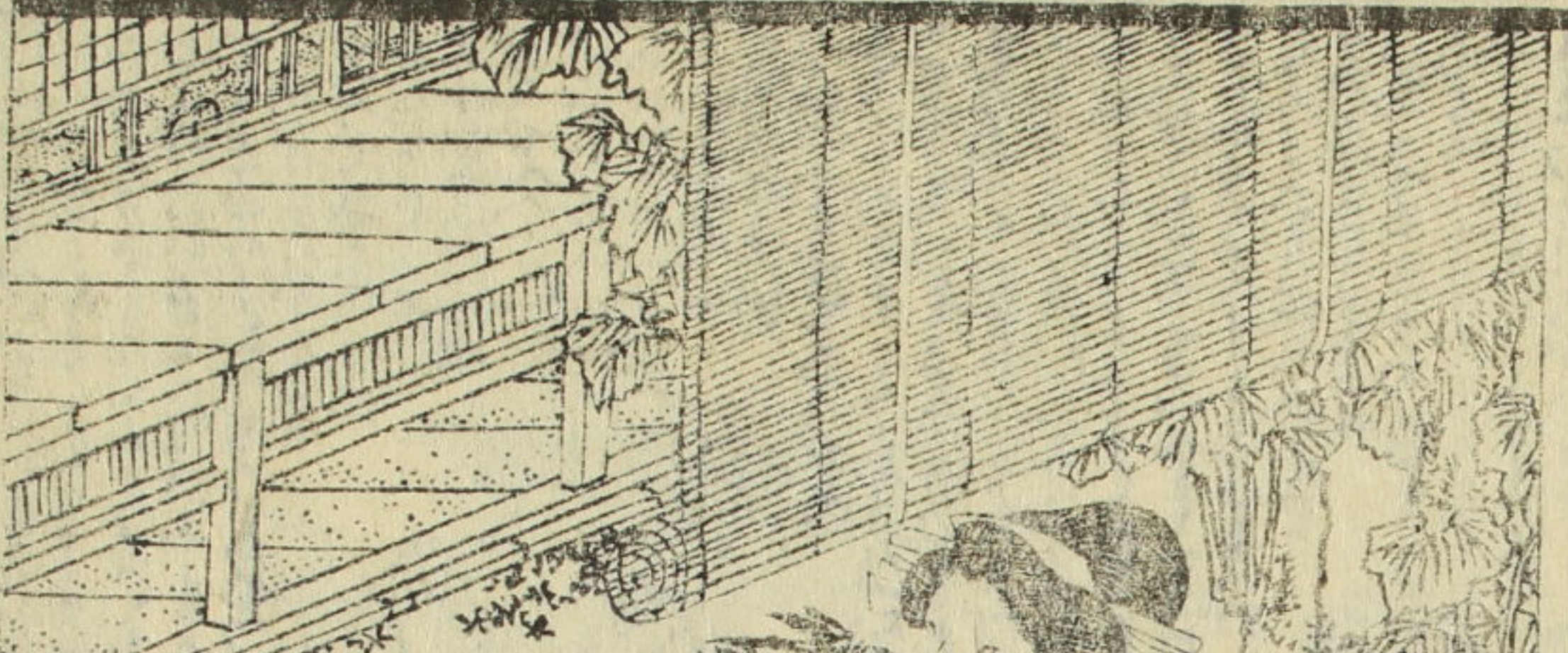
石のつらさのゆゑに  
あつちのつらさのゆゑに  
あつちのつらさのゆゑに  
あつちのつらさのゆゑに



あつちのつらさのゆゑに  
あつちのつらさのゆゑに  
あつちのつらさのゆゑに  
あつちのつらさのゆゑに



あつちのつらさのゆゑに  
あつちのつらさのゆゑに  
あつちのつらさのゆゑに  
あつちのつらさのゆゑに



あつちのつらさのゆゑに  
あつちのつらさのゆゑに  
あつちのつらさのゆゑに  
あつちのつらさのゆゑに







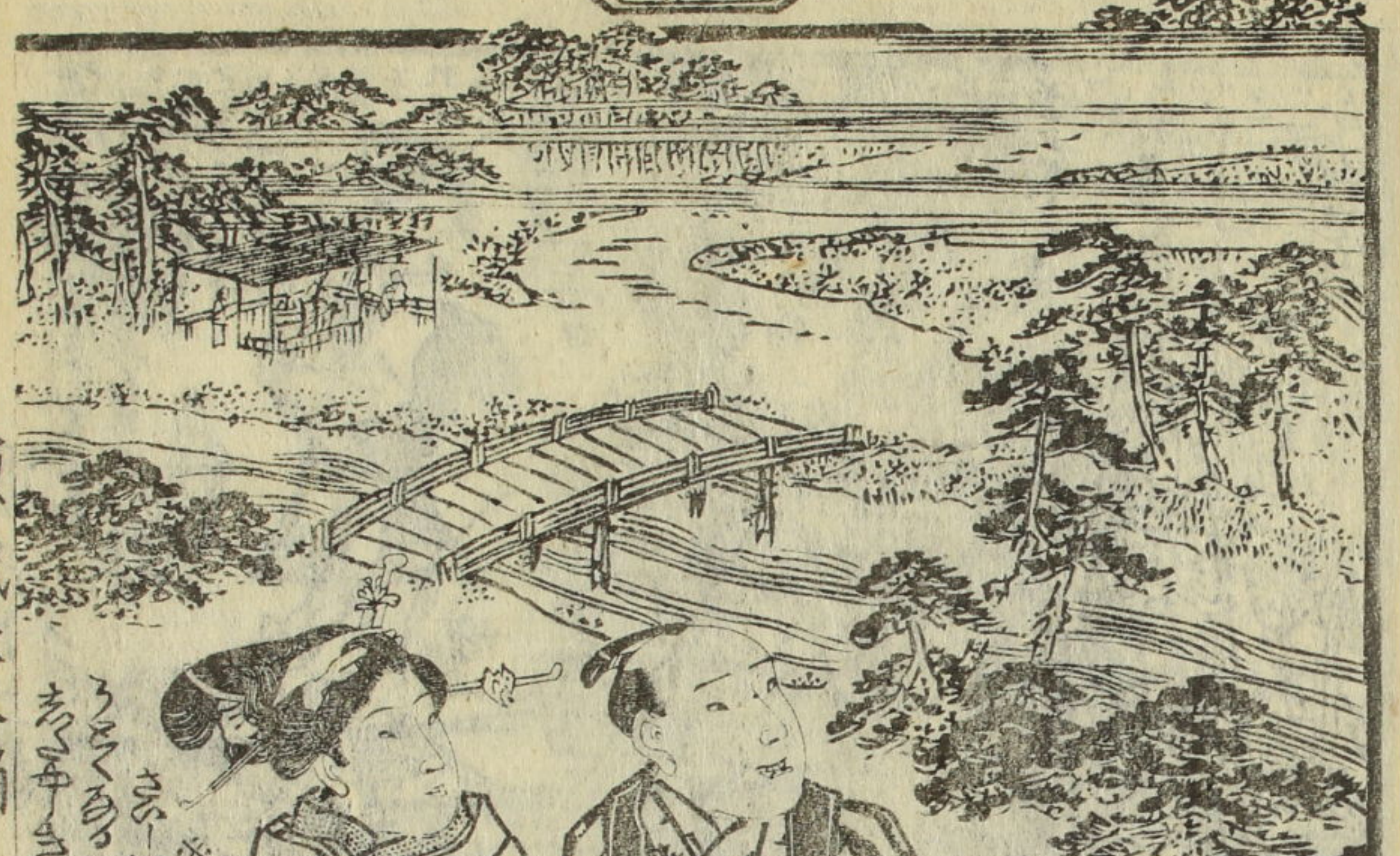










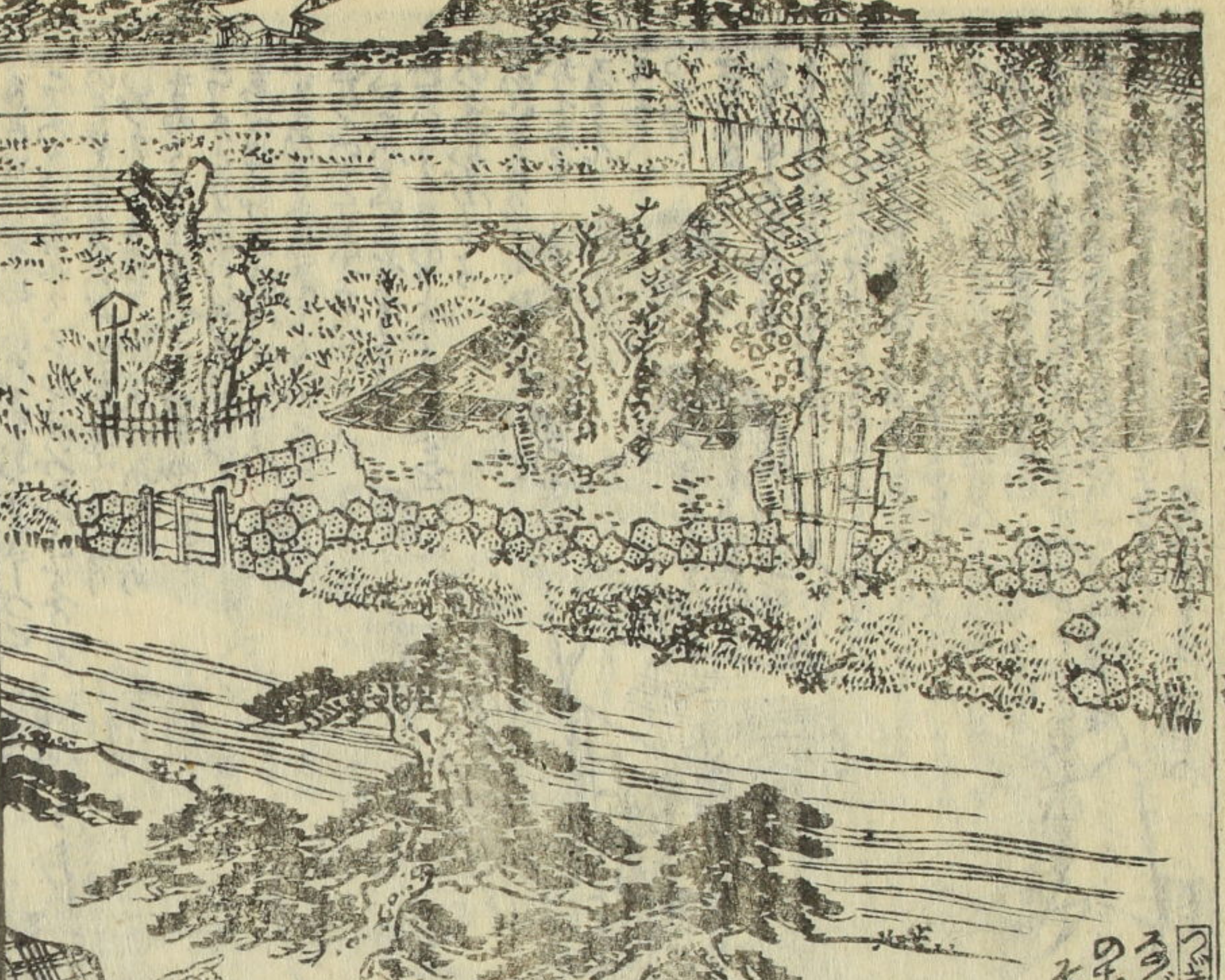


あはれなるもの  
あはれなるもの  
あはれなるもの



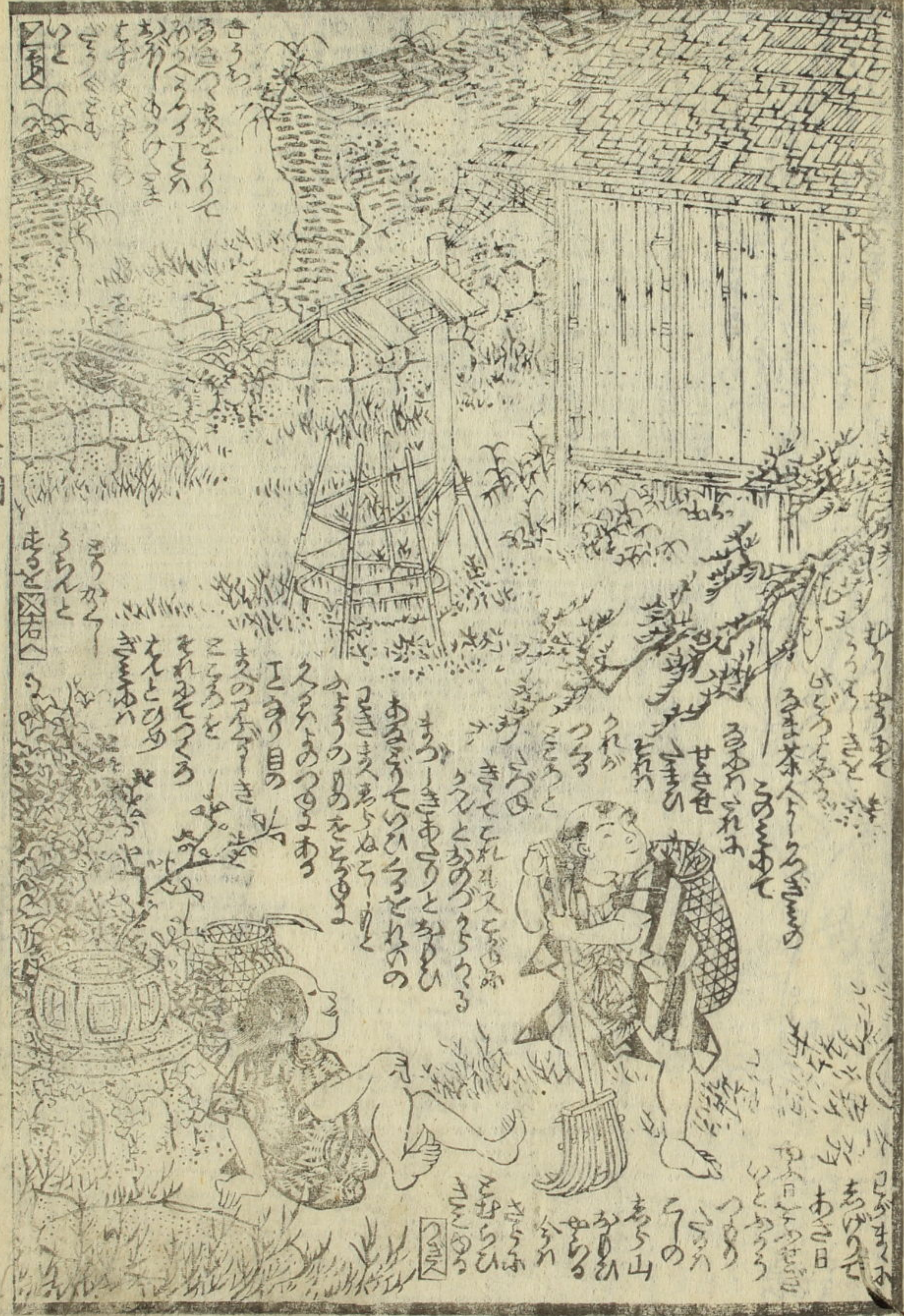
あはれなるもの  
あはれなるもの  
あはれなるもの

あはれなるもの  
あはれなるもの  
あはれなるもの

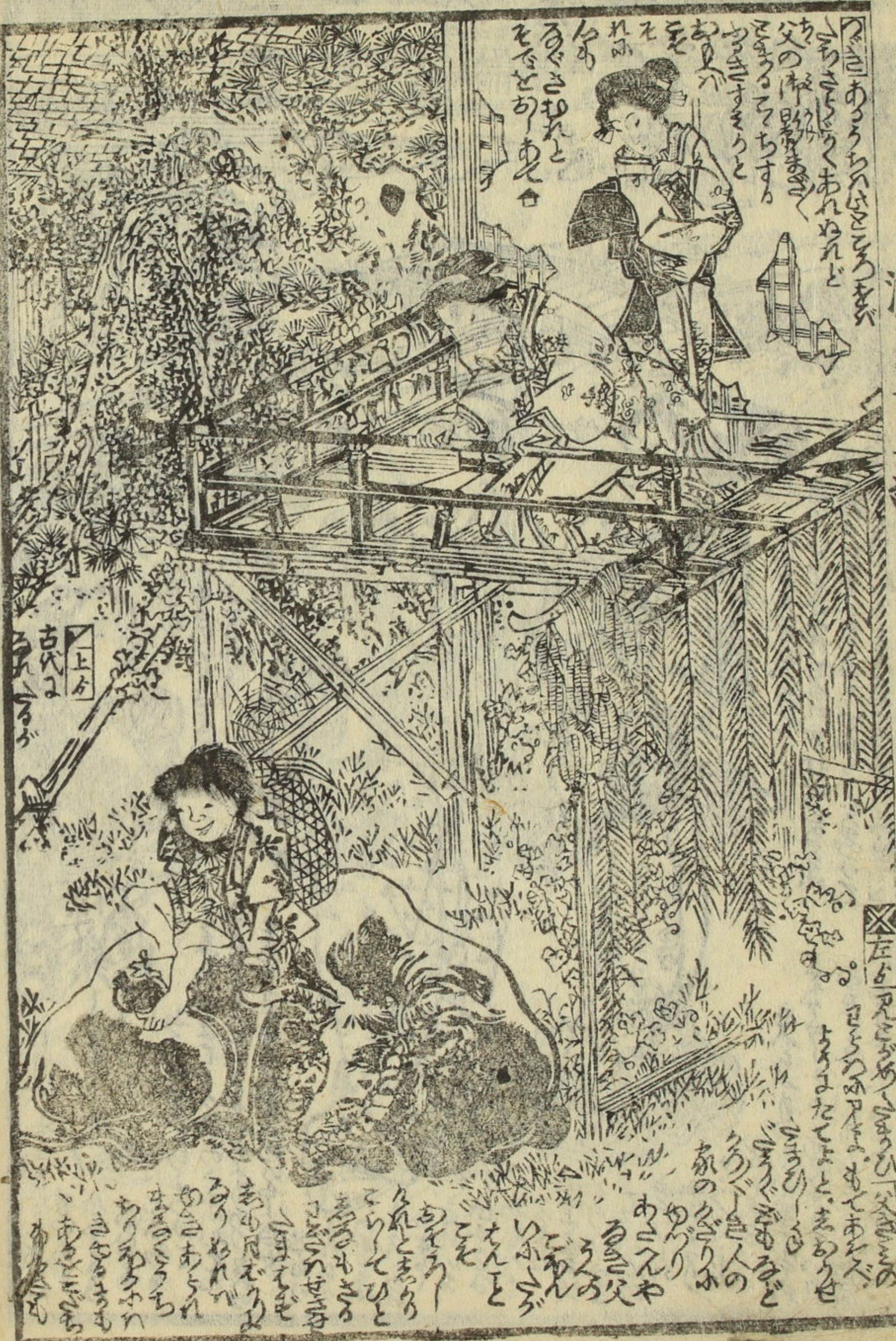


あはれなるもの  
あはれなるもの  
あはれなるもの

あはれなるもの  
あはれなるもの  
あはれなるもの

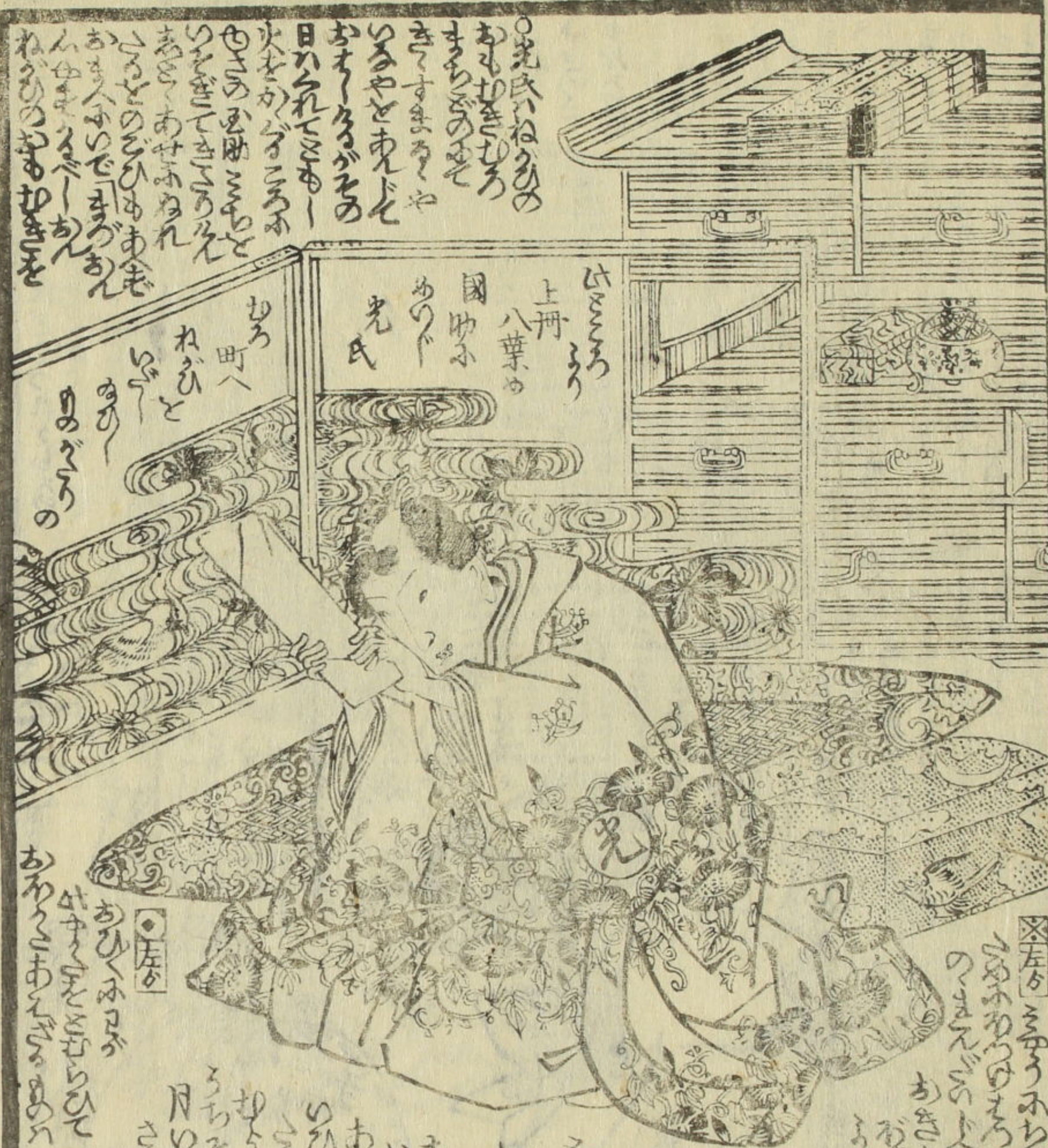


源多廿二編



源多廿二編





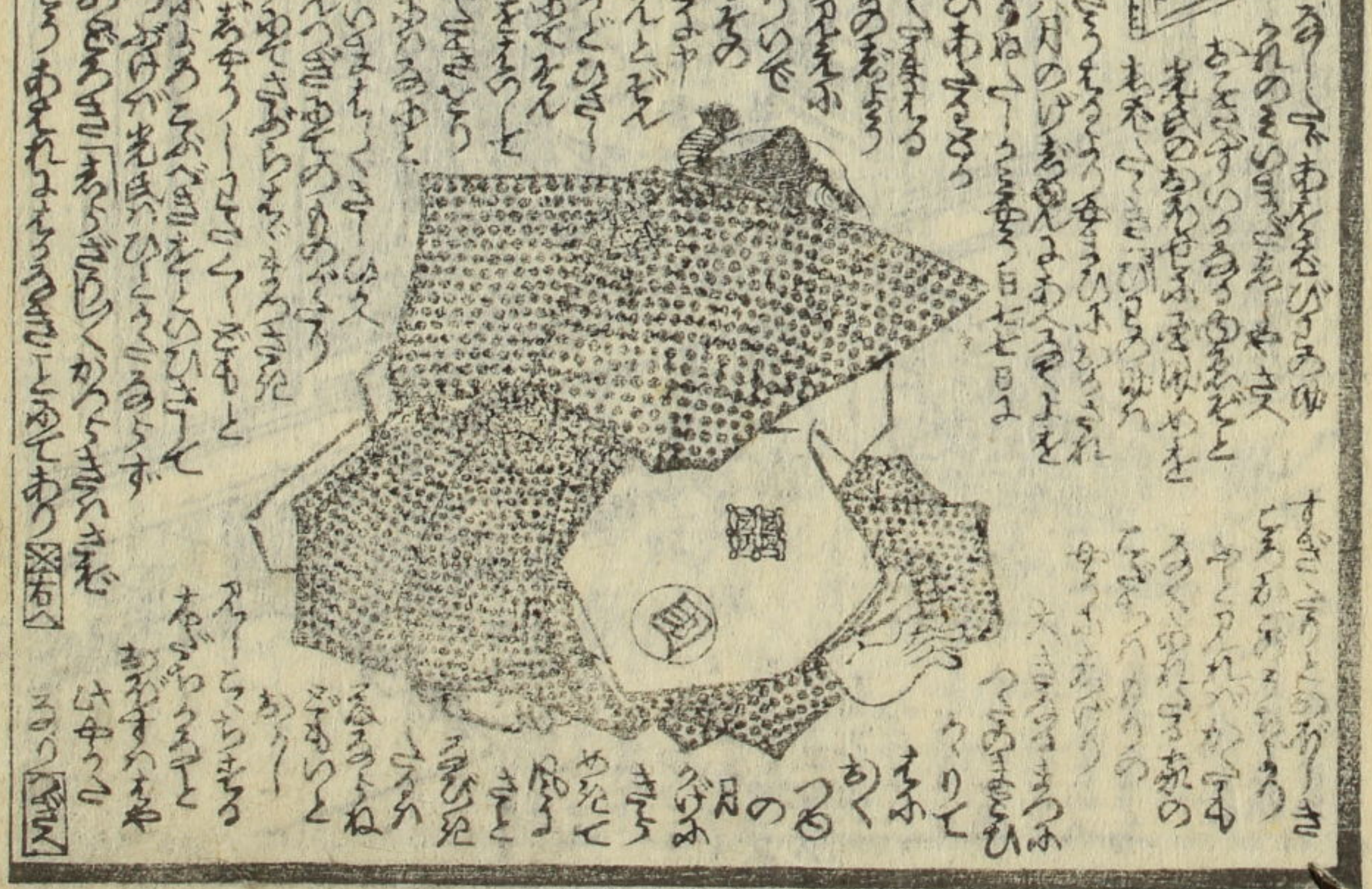
○光氏はねがみの  
おもむきむら  
まらぬのそ  
まにすまをや  
ひやせをんと  
おとろくがその  
日たれてそ  
火をかざらふ  
おののつと  
さむすまを  
あつたふれ  
つたのひひも  
おまふのそま  
んがふそま  
ねるひのそま

上冊 八葉の  
国ゆふ  
光氏  
むら  
町へ  
ねむ  
あつた  
のそま

○左のまじりふちの母をみきののがすの  
おまわりのまじりふちの母をみきののがすの  
あつたふれつたのひひも  
おまふのそま  
んがふそま  
ねるひのそま  
あつたふれつたのひひも  
おまふのそま  
んがふそま  
ねるひのそま  
あつたふれつたのひひも  
おまふのそま  
んがふそま  
ねるひのそま



むらまちのそま  
あつたふれつたのひひも  
おまふのそま  
んがふそま  
ねるひのそま  
あつたふれつたのひひも  
おまふのそま  
んがふそま  
ねるひのそま



あつたふれつたのひひも  
おまふのそま  
んがふそま  
ねるひのそま  
あつたふれつたのひひも  
おまふのそま  
んがふそま  
ねるひのそま  
あつたふれつたのひひも  
おまふのそま  
んがふそま  
ねるひのそま

これより上は...  
これより下は...  
これより上は...  
これより下は...



これより上は...  
これより下は...  
これより上は...  
これより下は...

これより上は...  
これより下は...  
これより上は...  
これより下は...

これより上は...  
これより下は...  
これより上は...  
これより下は...



これより上は...  
これより下は...  
これより上は...  
これより下は...



歌川國貞画

柳亭種彦作

天保八年丁酉初春新彫

修紫田舎源氏

當年北二編より北六編まで用板おかしき事笑境に程奉希の

柳亭種彦作 歌川國貞画

一筋道雪眺望

全四冊

飛翼連理意の櫻樹

歌川國貞画

森羅万象心意氣

全四冊

歌川國貞画

琴声女房形氣

全四冊

歌川國貞画

義艶仙女香  
里満美玄香  
四十八銅  
南條町  
三丁目  
坂本氏製



書物錦繪  
團扇地紙 問屋

江戸通油町  
鶴屋喜右衛門

浄書百形道友



